

情報科学との協働による革新的な農産物栽培手法を実現するための技術基盤の創出

日時 2021年2月4日 (木)
13:00~17:30 (12:45開場)

場所 オンライン開催 (Zoom Webinar)

参加登録 <https://form.jst.go.jp/enquetes/cultivation21>
(参加費無料 申込締切 2月2日(火)12:00)



本研究成果報告会では、JSTさきがけ事業で進めてきた、持続可能な農業生産に向けての情報学と農学との連携を通じた最新の研究成果をご紹介します

開会挨拶

研究総括 **二宮 正士 (東京大学)**

セッション1

13:05~14:05

峰野 博史 (静岡大学)

IoT/AI灌水制御を用いた情報協働栽培技術の進捗と今後

野田口 理孝 (名古屋大学)

個体内を移動するmRNA研究のその後

潮 雅之 (京都大学)

農業生態系の動態制御に向けた新たな枠組み：生態学からの提案

休憩 14:05~14:15

セッション2

14:15~14:55

大倉 史生 (大阪大学)

深層学習と三次元復元による植物の三次元構造再構築

宇都 有昭 (東京工業大学)

空撮画像による個葉スケール群落構造解析に向けて

休憩 14:55~15:05

セッション3

15:05~16:05

杉浦 綾 (農研機構)

超高精細フィールドセンシングによる個体生育モニタリング

野下 浩司 (九州大学)

植物の草姿・草型の数理モデル化と高効率フェノタイピングへの応用

戸田 陽介 (名古屋大学)

ディープラーニングを利用した植物表現型の定性的・定量的計測技術の開発

休憩 16:05~16:20

パネルディスカッション

16:20~17:30

テーマ：さきがけ「情報協働栽培」を終えて

パネリスト：

磯部 祥子AD(かずさDNA研究所)、上田 修功AD(理化学研究所)

福田 弘和(大阪府立大学)、小野 圭介(農研機構)、戸田 陽介(名古屋大学)

モデレーター：

二宮 正士 (東京大学)